

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H30-05	課題名	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究					
期間	2019～2021年度	担当部科室	保健科学部 ウイルス科					
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 本課題は、「岡山県感染症予防計画」における「感染症の発生の予防及びまん延の防止」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 感染症患者の周辺に存在する多数の軽症者・不顕性感染者、媒介動物等の介在は、感染症の発生や流行拡大に関わる重要な要素と考えられている。そのため、環境水、媒介動物等を対象とした調査により、地域全体の病原体分布を明らかにすることが望まれている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 県下でウイルス・リケッチアを扱うことができる検査機関は他になく、健康危機管理上で必要な行政検査とも関連する。</p> <p>4 事業の緊要性 環境水サーベイランスの画一的な手法は未だ確立されておらず、検体の前処理法の最適化が喫緊の課題となっている。また近年、致死率の高いウイルス・リケッチア等を保有するマダニが県内に生息することが明らかになっており、病原体を保有するマダニの分布状況の継続的な監視が予防啓発に必要である。</p>							
	調査研究の概要	<p>1 目標 地域全体としての病原体の分布を包括的に把握・解析し、感染症流行の拡大防止、さらには発生自体の抑制の一助とする。</p> <p>2 実施内容 ・ ウイルスの効率的な検出のため、下水処理場への流入水の濃縮法の検討を行う。 ・ 遺伝子組換え技術等を用い、下水処理場への流入水を対象に、通年でウイルスの遺伝子型の推移を追い、地域住民全体の感染状況を把握するための手法を確立する。 ・ マダニ媒介感染症に関して、患者報告の多い県南地域を対象にマダニの定点調査を実施し生息状況と病原体保有状況を把握する。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 下水処理場への流入水によるウイルスの詳細な流行疫学解析は先行的な研究である。また、県内でマダニの生息調査技術及び保有病原体の解析技術を有するのは当センターのみである。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現の可能性 あり 難易度 高</p> <p>5 実施体制 3名</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 患者発生に先んじて地域に侵淫するウイルス・リケッチアを特定することで、従来よりも早期の感染症予防対策の啓発が可能となる。</p> <p>2 普及方策 ・ 年報掲載、学会発表等 ・ 確立した手法の県内外検査機関への普及、研修指導 ・ 県、市町村等の行政関係への情報提供</p> <p>3 成果の発展可能性 ・ 環境水サーベイランスを従来の患者サーベイランスと組み合わせ、より詳細なウイルスの流行を把握することで、迅速で的確な感染症予防対策が可能となる。 ・ マダニの生息状況の把握に加え、将来的には野生動物の生息動態を勘案した感染リスクマップを作成することで、マダニ媒介感染症の効果的な予防啓発が可能となる。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	2019	2020	2021
(下水濃縮法の検討)								〔単位：〕 千円
(下水ウイルスサーベイランス)								
(マダニ調査)								
計画事業費		550		550	550	1,650		
一般財源		550		550	550	1,650		
外部資金等								
人件費(常勤職員)		8,000	8,000	8,000	24,000			
総事業コスト		8,550	8,550	8,550	25,650			